

第 8 回 熊本市街路樹再生計画策定委員会 議事録

日 時	令和 4 年 (2022 年) 8 月 29 日 10 時 00 分～11 時 30 分
場 所	桜の馬場城彩苑 多目的交流施設
出席委員	別紙 (配席図) のとおり

議事要旨 (①第 7 回委員会の振り返り ②パブリックコメントの結果報告)	
事務局	議事 ①第 7 回委員会の振り返り ②パブリックコメントの結果報告 【パワーポイント資料に基づき説明】
田中議長	50 件のパブリックコメントがあったのはよかった。意見がないことを心配していた。市民が無関心にならず、一人一人から街路樹についての意見が出る方が健全だと思う。
福西委員	パブリックコメントの意見で、「伐採した樹木の利活用」に関する意見があり、計画書案の p.28「6. 伐採した樹木の有効活用」に関係してくると思うが、ウッドチップ以外に利活用できる可能性はどのくらいあるのか。
事務局	今の仕組みでは可能性は低い。売るにしても加工するにしても、街路樹は市の財産であることが課題になってくる。今後、いろいろな手法を検討していきたい。
福西委員	パブリックコメントの意見で、「地図上で街路樹の位置がわかると理解しやすい」や、「グリーンインフラに関する情報を提示してもらいたい」などの回答があるが、今後、ホームページなどで見ることができるのか。
事務局	そのように考えている。
田中議長	福西委員、全体のイメージとしてはどうだったか。例えば、お友達の間でパブリックコメントやっているよ、とか議論はあったか。
福西委員	みんな気にしているが、パブリックコメントを書くまでは勇気がある。ここに意見を書かれている人は街路樹にとっても興味を持っている人であり、意識がとても高い人の意見。なかなか市役所のホームページにアクセスしてまでできないが、友人同士では街路樹を残してほしいとかムクドリがひどいから切ってほしいとか話にでると思う。この辺りの意見の吸い上げが難しいが、現段階ではうまくできているのではないか。
田中議長	私も学生に書くようにお願いしたが「とても難しかった」という意見だった。ダウンロードして記入ではなく、ウェブ上で入力可能にするなど、よりわかりやすくしないといけない。街路樹再生計画が市民参画をリードしていくようなやり方をすべき。街路樹は話の入口になりやすく、熊本市の SDGs の牽引ができると思う。再利用についてはハードルが高いという話だったが、もっと市民と一緒に再利用について提案したり、会社を作るでもいいと思う。こうやって意見がでることが大事なので、パブリックコメントをやって正解だった。また、書いて終わりではなく、フィードバックが必要。
松本委員	パブリックコメントを見ていると、街路樹伐採に対して賛成・反対の意見が書かれている。これに対しては、時間軸をわけて考える必要がある。現在と 20 年後あるいは 50 年後にわかる。ベルリンを例にした意見では「樹木は将来の社会に絶対不可欠だ」とある。街路樹が色々な問題をはらんでいることは確かだが、もっと長い時間軸で考えた時に街路樹は必要であるという考え方。これは一つの視点として忘れてはいけない。ベースとして、街路樹は必要であり、今の問題を解決していくにはどうすべきか (今の樹種でいいのか、植え替えるべきか等) を考えていくべき。身近な視点と先を見据えた視点でわけて考える。また、緑被率に関しては具体的な数値目標が必要だと思う。
田中議長	行政の皆さんは「どっちの意見も大事」ということを忘れないでほしい。どちらも対応しないといけない。数字の目標も大事で、数字を達成したら終わりではなく、その先も考えていくべき。両方の視点を市民の方が持っているのがありがたいと思う。

議事要旨（③熊本市域街路樹再生計画（案）について）	
事務局	議事 ③熊本市域街路樹再生計画（案）について 【第Ⅰ期熊本市域街路樹再生計画案に基づき説明】
田中議長	p.2の年表は「略年表」とした方がよい。場所はp.1に移し、歴史の話の後にあった方が読みやすい。その後「令和3年度末時点における…」と続ける。 p.31-32の「してはいけないこと」に写真を使うと、してはいけないことをしている人がいると誤解を招くかもしれないので、イラストがいいのではないかな。ここだけイラストというのも変かもしれないが、検討してほしい。
松本委員	1972年、76年などはモータリゼーションの時代で、都市の公害が報道で叫ばれ、その対策として緑を増やすために街路樹が盛んに取り入れられた。1987年、85年は第二空港線が開通して緑の3倍増計画と県内のことを書かれているが、バブルで盛んにお金がまわり短期間で緑化計画がなされ全国的に街路樹が植えられた。87年から3年くらいでバブルはなくなるが、その後も10年くらいは公共投資が続き、1987年くらいから2000年前後まで（約10年間）で緑は1.7倍程度になった。この時代のことが、今街路樹が抱えている問題の原因となり大きくしている。人口や税収が減少している今、バブルの負の遺産をどうしていくかを、この年表から考えられるように、時代背景も交えてはどうか。背景もなく、ただ年表を載せる意味がよくわからない。
田中議長	松本委員が言われたことは「はじめに」に少し書かれているが、略年表にも背景をいれるようにしたい。そうすると意味があるようになるし、全国に先駆けてやってきた市の取り組みもアピールできる。県のみではなく、全国と比較するとか、時代感を載せることが望ましい。
緒方委員	話に出た社会背景や社会環境もわかるが、全国総合開発計画の話やそれぞれの都市計画の基本的な考え方なども昭和40年代、50年代には大きく入ってきたこと。年表に社会的な一面だけでなく他のことも入れるなら膨大なものになる。例えば、緑の3倍増計画が書いてあるが、その背景として県が全国に先駆けて景観条例を制定したことなどもある。このようなことも踏まえたうえで年表にどこまで選別して書くかが課題となる。
田中議長	せっかく略年表をつくったので、市民の方に理解を促す上で丁寧に作りたい。これは委員長預かりにさせていただき、後日、委員の皆様を確認する作業を入れたい。
沼田委員	p.20表7の中に「過密化：間伐しても問題のない樹木」「樹木並列：十分な緑を確保できる樹木」といった文言がある。この委員会が再開されたきっかけは、ピンクリボンがいきなり巻かれ、全て切られるのではないかとのが出たのが最初。緑視率の関係もあると思うが、「こういった数値を目標として…間伐しても問題のない樹木とか、十分な緑を確保できる樹木」といった指針を持っていないと市民に説明し辛いのではないかな。再生計画に数値を入れるかどうかではなく、市として指針は持つべきと考えます。第5回委員会では、このくらい切った時もこのくらいになるという資料があった。この際の資料を追加すればわかりやすいのではないかな。
事務局	「間伐しても問題のない樹木」は植栽間隔の基準から判断するもので、道路構造令に基づいている（p.3に10～12mと説明がある）。わかりやすくという視点から、これまで委員会やHPでも整備前後のフォトモンタージュを示してきたが、再生計画に盛り込む方法は、どのようにしたらよいか。
田中議長	沼田委員のご意見はもっともだと思うが、これは事業計画ではないので、数字まで書きこむ必要があるのか。一例として何か出せばいいのかな。

議事要旨（③熊本市域街路樹再生計画（案）について）	
沼田委員	この計画を見た時に「このぐらいまで緑を確保してもらえる」というのが分かればよいと思う。
田中議長	再生計画はこれで十分であると思う。事業計画に照らして今年これだけ植える、伐採するというのをやるため、市民に説明する必要はあるが、ビジョンを共有する必要があるのか。事業者がきちんとしていけばいいのではないか。
事務局	再生計画の大きな考え方を記載しており、個別の路線の整備計画は後ろの A3 資料に具体的な写真等もつけている。これは重要 2 路線のみであるが、他の路線で実施する時は実施計画を作成することとしている。
緒方委員	第 5 回委員会の時は、対応基準の説明と同時に写真も使われている。沼田委員が言われたように、その時使った資料を計画に入れてはどうか。少しわかりやすくなり、イメージの共有もできるのではないか。
事務局	一度それらを入れた資料を作成し、委員の皆様を確認したい。
田中議長	数字ではなくイメージを持ってもらうためだと理解した。数字は A3 資料の整備計画に入れてもらう。
福西委員	p. 38 「2. その他の管理手法」で今まで中央分離帯でしか使っていなかった除草剤を歩道でも使うと書かれている。読んだ人が不安にならないように、「人体（ペットや小さいお子さん）に影響がない範囲で」とか、「危くないよ」ということが分かる書きぶりをお願いしたい。
田中議長	事務局は対応してほしい。
福西委員	p. 26 「(2)街路樹に関する知識・技術の共有」に関して、これはとても大切なことだと思うが、最終目標はあるのか。これは庁内ワークショップで出てきた案ではないのか。せっかくだいい取り組みを書くのなら、こういう気持ちがあって市職員が勉強したり研究したりするということが分かる書き方だともっと良いと思う。書く縛られるため難しいかもしれないので、どんなことを考えているかだけでも教えてほしい。
田中議長	「4. 実施手法の検討」の中で(1)グリーンインフラとしての活用、(2)街路樹に関する知識・技術の共有、(3)契約形態の検討とあり、グリーンインフラのことだけしか詳しく書かれていない。(2)(3)はそもそもいるのか。福西委員の意見は、書くのならイメージまで書いた方がよいというアドバイス。書かなければいけないのか、頭出しだけで内容があまりないなら消した方がよいのではないか。
事務局	ワークショップでも意見はあったが、計画策定時からあった内容。現在街路樹は道路付属物のような形で土木職員が管理をしている状況の中、他の造園職などと連携し専門技術を向上させていく必要があると認識している。最終目標は特にないが、このような意図で書いている。
田中議長	書くのであれば具体的目標や計画を書くべきではないか。(2)(3)はまとめられるかもしれない。検討してほしい。
柴田委員	今の話やイメージの話に関係するが、計画書 A4 と整備計画 A3 の内容や情報の落差が激しいのでそうなるのではないか。A4 資料から A3 資料につながるように作ればよいのではないか。 また、パブリックコメントの対応について、「対応 1」の 5 件はそれでいいが、圧倒的に多い対応 3 の 29 件の意見はどう活かしていくのか。対応 3 で難しいと感じたのは樹冠率の話。「対応 2」について、対応が不足していると感じたのは、「パブリックコメント意見一覧」p. 1 の上から 2 つ目の意見「ロードマップを示した方がよい」の回答案が「巻末資料に示す」というもの。これが落差という話だし、2024 年と 2029 年に対応

議事要旨（③熊本市域街路樹再生計画（案）について）	
柴田委員	を分けたという大きな変更点が伝わっていないことがわかる。p.12「4.計画期間」にはA3に書かれているような2024年までと2029年までの対応は書かれていないため追記が必要。「対応4」の方は建設的意見が多かったが、今後対応しますとして忘れ去られるのではないかと。計画の中に「第5章今後の進め方」を作ってはどうか。PDCAサイクルの記述は最低限必要。庁内連携の話も含め、「対応4」にある街路樹のGIS作成などの回答にもなるし、今日の委員会の意見も含められる。
田中議長	柴田委員の意見としては「第5章」を入れた方がよいということか。
柴田委員	内容をどこまで入れるかは検討が必要だが、その方がよい。先ほど出た(2)(3)は具体的に書くにはハードルが高いため、今後検討していく項目として載せればよいのではないかと。
田中議長	パブリックコメントを基に「第5章」を作るのもいいと思う。公民連携、省内連携、計画をどのように更新していくか、を盛り込む。事務局で検討することでよいか。
事務局	検討する。
田中議長	パブリックコメントで24名が意見をくれた。ネガティブな意見もあるが、熊本市の街路樹が大事というのは意見としてあると思う。松本委員が言われたように、歴史をちゃんと振り返ることで、なぜこの計画があるのかの説明になる。ここは責任をもってやりたいと思う。
松本委員	p.26「(2)街路樹に関する知識・技術の共有」に「熊本市造園建設業協会等と協力し」とある。これはとても大切だ。プランがよくてもメンテナンスで品質が落ちることはよくあるため、行政とメンテナンスをする人が共通認識を持って進めていくべき。また、パブリックコメントにもあるが、市民に対して街路樹の働きや行政の努力をみてもらうためには教育や理解が必要で、市民と触れ合って共通認識の場を作っていくことが大切。緑や街路樹の大切さを様々な媒体を使って広報していくのも、行政のやるべき役割だと思う。
田中議長	先ほど、公民連携、庁内連携、計画の持続可能性の話をしたが、松本委員の話を聞いて、持続可能性－公民連携－庁内連携の流れがよいと思った。ビジョンは2029年まで示すが、これを前期後期にわけて細かくみていく。A3の整備計画についてはアップデートしながら作っていくなれば事業者との連携が大事なため、持続可能性が最初に来て、公民連携に続く。民の中には実務と市民がいて、広報・PRについても触れる。最後に庁内連携で、行政がやっていくのにこういうのが必要という内容にする。「第5章」はこのような目次建てにしたい。
吉村委員	管理をやるのは行政だけ、市造協だけではできない。関連する方々で役割分担をしながら育成していきたい。長期的にみていくとなると、生長による支障が出てきて、30年もすると伐採も考えられる状況になる。2029年までの間、様々な問題が出てくると思われるため、5年ごと、3年ごとに見直しをする協議の場が必要ではないか。
田中議長	パブリックコメントの「対応2」は「対応1」にして、第5章に記載することなどを検討する。また、この委員会をどうしていくかが気になっている。計画策定の検討はこれで区切るが、これを見守る委員会を少人数でも市民を入れてでも継続してはどうか。年に何回か、計画がきちんと運営されているか、事業実施委員会のような形で残した方がよいのではないかと。もちろん、国や県の方でも見守っていただきたい。
米村委員	パブリックコメントを実施し、市民の意見を広く聞くことができた、というのが感想。また、知識の共有の話ができたが、我々はハード整備が専門で、道路に付随しての街路樹としてやってきたため、それでは画一的な見方しかできない。

議事要旨（③熊本市域街路樹再生計画（案）について）

米村委員	<p>緑に関しての専門家や教育が必要だが、人材も少ない。よく比較されるのが福岡市で、ここは造園職が多く、街路樹も公園も共に担っている。熊本市も将来の理想形として進めていかななくてはならないことだろう。普段は沿道、道路直近の方の意見を聞くことが多く、同時に街路樹への苦情の声の方が多く、その対応に苦慮している。こういう場を通じて広く緑への意見を聞き続ける必要があるし、市民協働や庁内協働作業にも活かせると思う。</p>
田中議長	<p>米村委員の話は中の人声として大事。委員会ではこう言っているが、現場の人たちは全然実施していない。という話をよく聞く。声の大きい人の意見も大事だが、まだ意見を聞けていない人の声を吸い上げることも大事なので、引き続きやっていただきたい。</p>
堤委員	<p>計画の p. 4 から写真付きで街路樹の問題が書かれている。警察の立場としては安全が一番で、対応策として p. 20 に再整備（伐採）という言葉で基準を設けてもらったのはとてもよかったと思う。p. 4 の根上りの写真は県庁通りのものと思われるが、大変危険な状態なので、道路管理者の方で撤去した方がよいのではないかと。</p>
田中議長	<p>土木の側としてはハードをつくっていて、警察の皆さんは安心安全の視点で見られている。一方で、通行している人（利用者）の意見も大事。管理者の声は聞くことができるが、利用者の声は聞きにくいと思うので、そういう意味でもパブリックコメントをやってよかった。意見を聞いてしまったので無駄にはできない。これが仕切りなおしてやった一番大きな成果だと思う。</p>
緒方委員	<p>田中議長から今後の委員会のことや、柴田委員から「第 5 章」の話がでた。計画をつくる時にはフォローアップという言葉で今後どうしていくか書くことがある。「第 5 章」でそれに触れてはどうか。</p>
田中委員	<p>フォローアップの方法も含めて追記するようにしたい。そういう意味ではパブリックコメントにあったロードマップという言葉はとても大切であり、きちんと入れていきたい。</p> <p>皆様からの貴重な意見をいただいた。これで審議は終わりたい。</p>